

平成30年度神奈川県児童生徒の問題行動等調査
調査結果の概要1（私立学校分）

資料3

■ 主な調査結果の前年度比較

項目（調査対象）	30年度	29年度	増減
暴力行為の発生件数 （私立小・中・高等学校）	340件	289件	51件増
いじめの認知件数（私立小・中・高等・特別支援学校）	1,116件	696件	420件増
いじめの解消率			
平成31年3月31日現在の状況	58.7%	91.2%	32.5%減
令和元年7月19日現在の状況	63.1%	—	—
小・中学校長期欠席者数（私立小・中学校）	888人	745人	143人増
うち、小中学校不登校児童生徒数	594人	505人	89人増
高等学校長期欠席者数 （私立高等学校）	1,263人	1,335人	72人減
うち、高等学校不登校生徒数	658人	676人	18人減
中途退学者数 （私立高等学校）	733人	606人	127人増

* 中学校には中等教育学校前期課程を、高等学校には中等教育学校後期課程を含む

I 【暴力行為について】 ※()の値は昨年度の数値

- 県内私立小・中・高等学校における暴力行為の発生件数は、前年度より51件増え、340件でした。

校種別内訳は、小学校114件(112件)、中学校96件(95件)、高等学校130件(82件)です。

生徒間暴力は、264件と引き続き高い水準で推移している状況にあることから、様々な課題を抱える加害児童生徒への適切な指導や対応を積極的に行っていく必要があります。

II 【いじめについて】 ※()の値は昨年度の数値

- 県内私立小・中・高等・特別支援学校におけるいじめの認知件数は、前年度より420件増え、1,116件でした。

校種別内訳は、小学校452件(437件)、中学校164件(148件)、高等学校500件(111件)

特別支援学校0件(0件)です。

いじめの解消率については58.7% (91.2%) でした。校種別にみると小学校91.4% (95.0%)

中学校76.8% (87.8%)、高等学校23.2% (81.1%) でした。

なお、本年度より実施した7月19日時点での「解消率」は、63.1%でした。

いじめの重大事態の発生件数は、0件でした。

Ⅲ 【長期欠席・不登校について】 ※()の値は昨年度の数値

<小・中学校>

- 県内私立小・中学校における長期欠席者は888人でした。このうち小学校71人(62人)中学校817人(683人)でした。

小・中学校における長期欠席者のうち不登校児童生徒数は、前年度より89人増加し、594人でした。校種別内訳は、小学校35人(28人)、中学校559人(477人)です。

不登校の要因(区分)は、小学校は「家庭にかかる状況」が一番多く、次に「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が多いという結果でした。

中学校は「家庭にかかる状況」と「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が一番多く、次に「学業の不振からくる不安」が多いという結果でした。

小・中学校において「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」の割合は24.9%でした。

<高等学校>

- 県内私立高等学校における長期欠席者は、前年度より72人減少し1,263人(1,335人)でした。

高等学校における長期欠席者のうち不登校生徒数は、前年度より18人減少し、658人(676人)でした。

不登校の要因(区分)は、「家庭にかかる状況」が最も多く、次に「いじめを除く友人関係をめぐる問題」「学業の不振」が多いという結果でした。

高等学校において「指導の結果登校する又はできるようになった生徒」の割合は35.0%でした。

Ⅳ 【中途退学者について】 ※()の値は昨年度の数値

- 県内私立高等学校における中途退学者は、前年度より127人増加し、733人(606人)でした。

中途退学に至った理由は、「進路変更」が最も多く、ついで、「学校生活・学業不適應」が多いという結果でした。

* 各調査項目別の「調査結果の概要」については、次ページ以降に掲載しています。

V 項目別調査結果の概要

1 暴力行為の状況（私立小・中・高等学校（通信制を含む））

・調査結果の概要（詳細データは資料4のP. 1～5）

ア 暴力行為の発生件数は340件（前年度より51件増加）

イ 校種別の内訳は、

小学校	114件（前年度より2件増加）
中学校	96件（前年度より1件増加）
高等学校	130件（前年度より48件増加）

ウ 形態別内訳は、

対教師暴力	13件（前年度と同数）
生徒間暴力	264件（前年度より40件増加）
対人暴力	2件（前年度より8件減少）
器物損壊	61件（前年度より19件増加）

エ 加害児童生徒数は、

小学校	129人（前年度より29人増加）
中学校	110人（前年度より2人増加）
高等学校	151人（前年度より57人増加）

オ 暴力行為を5回以上繰り返し起こした児童生徒は、6人（小学校6名、中学校0名）

2 いじめの状況（私立小・中・高等（通信制を含む）・特別支援学校）

・調査結果の概要（詳細データは資料4のP. 6～13）

ア いじめの認知件数は1116件と、昨年より大きく増加している。（前年度より420件増加）

イ 校種別の内訳は、

小学校	452件（前年度より15件増加）
中学校	164件（前年度より16件増加）
高等学校	500件（前年度より389件増加）
特別支援学校	0件（前年度と同数）

ウ いじめの日常的な実態把握のための学校の取組みの中で、「アンケート調査を実施」した学校の割合は、72.8%（前年度より3.7ポイント増加）、「個別面談を実施」した学校の割合は、82.2%（前年度より5.2ポイント増加）

エ いじめの現在の状況は、「解消しているもの」の割合が、58.7%（前年度より32.5ポイント減少）であった。

なお、本年度より実施した7月19日時点での「解消率」は、63.1%でした。

オ いじめの重大事態の発生件数は、0件。

3 長期欠席・不登校児童生徒の状況（私立小・中学校）

・調査結果の概要（詳細データは資料4のP.14～16）

ア 長期欠席児童生徒数は888人（前年度より143人増加）

出現率は2.46%（前年度より0.4ポイント増加）

イ 校種別の内訳では、

小学校	長期欠席児童数	71人（前年度より9人増加）
	出現率	0.69%（前年度より0.08ポイント増加）
中学校	長期欠席生徒数	817人（前年度より134人増加）
	出現率	3.17%（前年度より0.54ポイント増加）

ウ 不登校児童生徒数は594人（前年度より89人増加）

出現率は1.65%（前年度より0.25ポイント増加）

エ 校種別の内訳は、

小学校	不登校児童数	35人（前年度より7人増加）
	出現率	0.34%（前年度より0.07ポイント増加）
中学校	不登校生徒数	559人（前年度より82人増加）
	出現率	2.17%（前年度より0.33ポイント増加）

オ 不登校児童生徒への指導結果状況は、

① 指導の結果、登校する又はできるようになった児童・生徒の割合

小学校 20.0%（前年度より22.9ポイント減少）

中学校 25.2%（前年度より2.6ポイント増加）

② 指導の結果、継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒の割合

小学校 34.3%（前年度より20.0ポイント増加）

中学校 19.7%（前年度より0.8ポイント増加）

①②を合わせた改善率

小学校 54.3%（前年度より2.8ポイント減少）

中学校 44.9%（前年度より3.4ポイント増加）

4 長期欠席・不登校生徒の状況（私立高等学校（通信制を含まない））

・調査結果の概要（詳細データは資料4のP.17～19）

ア 長期欠席生徒数は 1,263人（前年度より72人減少）

長期欠席出現率は 1.77%（前年度より0.11ポイント減少）

イ 不登校生徒数は 658人（前年度より18人減少）

不登校出現率は 0.92%（前年度より0.03ポイント減少）

ウ 不登校生徒への指導結果状況は、

① 指導の結果、登校する又はできるようになった生徒の割合

35.0%（前年度より10.6ポイント減少）

② 指導の結果、継続した登校には至らないものの好ましい変化がみられるようになった生徒の割合

20.7%（前年度より9.5ポイント増加）

①②を合わせた改善率 55.7%（前年度より1.1ポイント減少）

エ 不登校生徒が指導・相談を受けた学校内外の機関等は、

公的相談機関や病院、民間団体等の機関で相談・指導等を受けた人数 149人 22.6%
（前年度より15人増加 2.8ポイント増加）

養護教諭やスクールカウンセラー等による相談を受けた人数 298人 45.3%
（前年度より10人増加 2.7ポイント増加）

5 中途退学者等の状況（私立高等学校（通信制を含む））

・調査結果の概要（詳細データは資料4のP.20～23）

- ア 中途退学者数は733人（前年度より127人増加）
中途退学率は 1.02%（前年度より0.18ポイント増加）
- イ 中途退学に至った理由について、割合の多い順に
進路変更が、320人・43.7%（前年度 302人・49.8%）
学校生活・学業不適合が、242人・33.0%（前年度 178人・29.4%）
家庭の事情が、46人・6.3%（前年度37人・6.1%）となった。
ちなみに、経済的理由は、3人・0.4%（前年度9人・1.5%）であった。
- ウ 懲戒による退学者数は4人（前年度3人）であった。

6 自殺の状況（私立小・中・高等学校（通信制を含む））

・調査結果の概要（詳細データは資料4のP.24）

- 小学生で0人（前年度0人）、中学生で1人（前年度0人）、高校生で4人（前年度1人）という結果であった。